

<参加の感想>

高丸先生の段階を踏んだ指導で、物語づくりの活動に入り込むことができた。

めあてを知らせて「さあ、挿絵をさんこうにお話作りなさい」という機械的な導入では、子どもたちは動けない。たくさんの漢字をもれなく使うことにも意欲がわかないだろう。

ところが、ティピカルストーリー(物語の典型)という視点を差し入れることで、学習活動への興味や関心、好奇心が刺激される。また、先生の自作モデルは、前学年までに既習の物語であり、子どもにとって分かりやすいものだ。これで活動の壁がまたずいぶん低くなると感じた。

4人グループの活動では、書き出し文が与えられていることや、自分の分担は一文でよく、続きは次の人がつないでいってくれるという安心感があり気楽にできた。「止め」の合図まで、繰り返し活動するうちに、分担もいろいろと変化し、活動の抵抗感も知らず知らずなくなり、4人で活動を愉しんでいるなあと感じていた。子どもたちにとってもきっと楽しい学習になるだろうなと想像していた。是非ともやってみたくなった。

発展的なやり方の紹介④ではこんなお話があった。

「活動が楽しめる『一人でも作りたい』と言い出す子が出てくる。「まだまだ!ムリ」と返すと、「できる!できる!」と返ってくる。「それじゃ時間をあげようかな」と言うと、子どもたちは指示も待たずにすぐに動きだす。子どもから「やろう」という声が出てくるようでありたい。」

これからの指導で参考にしたいと思った。ありがとうございました。

(M. K記)